

平成19年度 病害虫発生予察情報

発生予報 第1号（4月）

平成19年 4月 4日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	平年並
果樹	イネ	イネミズゾウムシ	平年並
	ナシ	黒斑病	やや少ない
		ハダニ類	やや少ない
野菜	タマネギ	ボトリチス属菌による葉枯れ	やや少ない
		白色疫病	やや多い
		べと病	平年並
	イチゴ	腐敗病・軟腐病	やや多い
		灰色かび病	やや多い
	アブラムシ類	やや多い	

中国地方1か月予報（3月31日～4月30日・広島地方気象台3月30日発表）

- ・向こう1か月の気温と降水量は平年並み、日照時間は少ないでしょう。
- ・期間の前半を中心に寒気の影響を受ける時期がある見込みです。

A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類

予報内容

発生地方 県下全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（平成7年以降、3月末の発生は未確認）。
- ②ムギの生育は平年に比べて早い。
- ③4月の気象は気温、降水量とも平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県下全域
発生時期 早い
発生量 平年並

予報の根拠

- ①ムギの生育は平年に比べて早い。
- ②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない（平成7年以降、3月末の発生は未確認）。
- ②ムギの生育は平年に比べて早い。
- ③4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

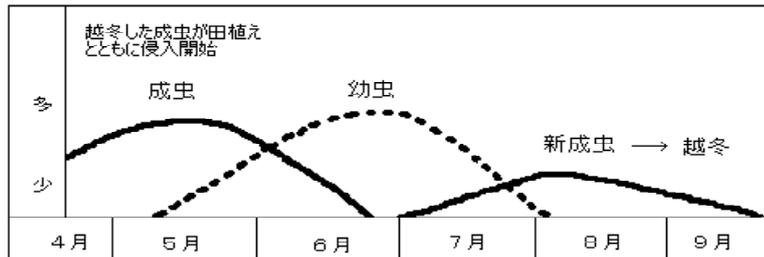
発生地方 県下全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年の新成虫の誘殺数は平年並み（平年比76%）で、本年の越冬量は平年並みと考えられる。
- ②4月の気象は気温、降水量とも平年並みと予想されており、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

防除の注意事項

- ①越冬成虫の侵入ピークの5月上中旬稚苗植の作型が被害を受けやすい。
- ②常発圃場では育苗箱施薬が効果的です。



B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下二十世紀栽培地帯
発生時期 早い
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①前年の発生量は少なかった。
- ②ナシの生育進度は平年に比べて早い。
- ③4月の気象は気温、降水量とも平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

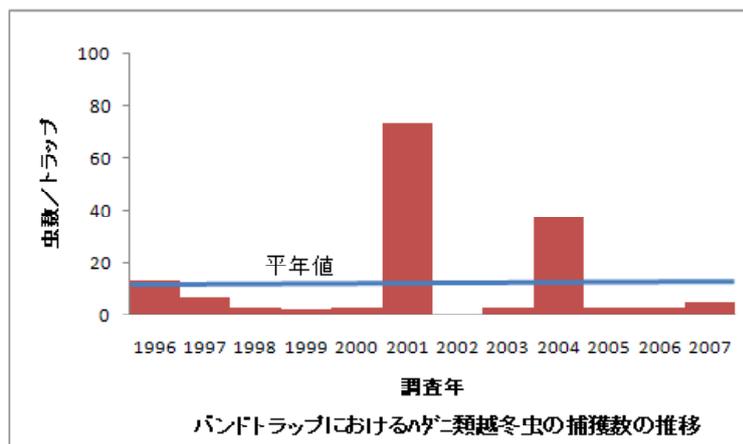
(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は50.0%（平年55.6%）、平均越冬虫数は4.7頭/バンド（平年13.2頭/バンド）と平年に比べてやや少ない。
- ②4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点において3月下旬現在、発生は確認されていない（平成発病株率0.07%）。
- ②4月の気象は気温、降水量とも平成並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①3月下旬の発生量は、発生圃場率が48.0%（平成23.2%）、発病株率は1.5%（平成0.9%）と平成に比べてやや多い。
- ②4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ベと病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平成並

予報の根拠

- ①3月下旬における越年罹病株の発生圃場率は12.0%（平成9.4%）、発病株率は0.2株/1万株（平成1.0株/1万株）とほぼ平成並みである。
- ②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①3月下旬の発生量は、発生圃場率が32.0%（平成38.3%）、発病株率は1.2%（平成0.5%）と平成に比べてやや多い。
- ②4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①3月下旬の発生量は、発生圃場率が42.9%（平成38.5%）、発病株率は3.4%（平成2.7%）と平成に比べてやや多い。
- ②4月の気象は気温、降水量とも平成並みと予想されており、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①3月下旬の発生量は、平成に比べてやや多い。
- ②4月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6日以上早い	3～5日早い	平年値を中心として 前後2日以内	3～5日遅い	6日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側10%の入る幅	外側20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側20%の入る幅	外側10%の入る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは <http://www.jpjn.ne.jp/shimane/>

(農業技術センターのアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/>)

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL 0853-22-6772
FAX 0853-24-3342
e-mail ksmn0301@sp.jpjn.ne.jp